



横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 507 (2020. 3. 13 日)

<今週のトピックス>

アメリカは世界一のスキーマーケット

冬のニューヨークは、本当に寒い。と思われている方も多いと思いますが、今年の冬は、記録的な暖かさとなっています。ニューヨークシティ（マンハッタンなど）で雪が降ったのは、数回程度でした。

アメリカの寒い地域では、寒い冬を満喫するために、ウィンタースポーツを楽しむ方も多いです。ポピュラーなスポーツでは、アイスホッケー、アイススケート、スキー、スノーボードなどです。

スケートについて、スケートリンクは、マンハッタン内では、映画やテレビでも見かけるロックフェラーセンターの前にできる「The Rink at Rockefeller Center」が最も有名です。ほかにも、セントラルパークにある「Wollman Rink」や、ミッドタウンの中心地にあるブライアントパーク内の「Winter Village at Bryant Park」が有名です。マンハッタン内だけではなく、ニューヨーク郊外でも沢山のスケートリンクがあり、アメリカ人にとっては、身近なスポーツとなっています。アイスホッケー文化が根付いており、フェイスマスク付きのヘルメットを被った子供たちが元気一杯に滑っている光景も目にすることができます。

もう一つの代表的なウィンタースポーツは、スキーです。

ニューヨーク州は、縦長に広く、北はカナダとの国境線（ナイアガラの滝がある辺り）まであり、ニューヨークシティから車で1~2時間走ると、スキー場に辿り着けます。

アメリカにおけるスキー（文化）の歴史は古く、1882年に、ノルウェーからの移民が、ニューハンプシャー州で作ったスキークラブが最初ようです。世界発の椅子型リフトが設置されたのは、アメリカで、アイダホ州のサンバレー。その後、1950年から1970年には、一大スキーブームが到来。1955年には78エリアであったスキー場が、10年で580まで増加。1950年代、1960年代は、年率15%の割合でスキー人口が増加していったようです。

1980年代初頭には、700を超えるスキー場があったようですが、設備費用等の上昇に伴い、徐々に減少の道を辿り、今日では500を下回ったようです。

それでも、アメリカは、世界最大のスキーマーケットとされています。アメリカでは、アクティブなスキー人口は、約1,000万人程度います。また、シーズンを通じた延べスキー客数は5,000万人以上で、リフトが5基以上あるスキーリゾート数も356と、ともに世界第一位です。

一方、日本では、スキー人口は1990年代に1,800万人以上だったのが、今では約600万人にまで減少しているようですが、延べスキー客数は3,000万人以上、スキーリゾート数も279の第2位と、アメリカと並んで日本もまだまだスキー大国となっています。

スノーボーダー率は、アメリカで25%程度、日本は30%程度となっており、アメリカの方が、スキーヤー人口の割合が大きいようです。

世界的な地球温暖化や気候変動による暖冬により、日本でもアメリカでも、今年は“雪不足”が続いています。世界で見ても、スキー（スノーボード）人口が多い日本でもアメリカでも、この根強いスキー文化が続いていくことを願っております。

<世界各国のスキー客数/スキーリゾート数 トップ10>

	延べスキー客数 (万人)		スキーリゾート数 (リフト5基以上)	
1	米国	5418	米国	356
2	フランス	5319	日本	279
3	オーストリア	5180	フランス	234
4	日本	3151	イタリア	216
5	イタリア	2735	オーストリア	198
6	スイス	2256	スイス	89
7	カナダ	1793	中国	82
8	中国	1502	カナダ	73
9	ドイツ	907	スウェーデン	68
10	スウェーデン	886	ロシア	57

(出所：Laurent Vanat「2019 International Report on Snow & Mountain Tourism」)

- ・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- ・本レポートは信頼できるとされる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
- ・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
- ・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。